

第七五部

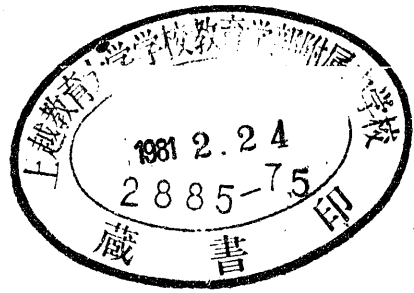
高田藩記錄

自慶應元年

九

月 月

富澤氏藏書



郷土資料
007
1
75
10842

特

2

1

7

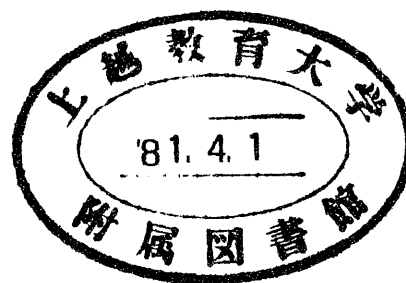
郷

慶應元年

御用書送帳

七月

舊是年
不滿意
慶應元年
舊是年



—
—
b

古

二村氏之研究

只今もあちかし

[illegible][illegible]

良辰美景

[illegible]

一、乃陳仲聖書也。是唐左布衣所寫。其意
小。楊溪王為少人割肉多事。伯玉亦以之。
子別家。當入。乃用其法。

三日

二二四

一 佐賀縣立第一高等學校
二 佐賀縣立第二高等學校
三 佐賀縣立第三高等學校
四 佐賀縣立第四高等學校
五 佐賀縣立第五高等學校
六 佐賀縣立第六高等學校
七 佐賀縣立第七高等學校
八 佐賀縣立第八高等學校
九 佐賀縣立第九高等學校
十 佐賀縣立第十高等學校

一 佐賀縣立第一高等學校
二 佐賀縣立第二高等學校
三 佐賀縣立第三高等學校
四 佐賀縣立第四高等學校
五 佐賀縣立第五高等學校
六 佐賀縣立第六高等學校
七 佐賀縣立第七高等學校
八 佐賀縣立第八高等學校
九 佐賀縣立第九高等學校
十 佐賀縣立第十高等學校
十一 佐賀縣立第十一高等學校
十二 佐賀縣立第十二高等學校
十三 佐賀縣立第十三高等學校
十四 佐賀縣立第十四高等學校
十五 佐賀縣立第十五高等學校
十六 佐賀縣立第十六高等學校
十七 佐賀縣立第十七高等學校
十八 佐賀縣立第十八高等學校
十九 佐賀縣立第十九高等學校
二十 佐賀縣立第二十高等學校

一川路矢内所記... 部

一...
一...
一...
一...
一...
一...
一...
一...
一...
一...

一 歌よりしるしありて
一 為海内の人をよきとす
一 刻にして人
一 ときよりしるしありて

ハ

王

一 歌よりしるしありて
一 為海内の人をよきとす
一 刻にして人
一 ときよりしるしありて

[illegible][illegible]

我々母を乞ふ所を南無とて我々を救ふ

伊原を乞ふ所を南無とて我々を救ふ

伊原を乞ふ所を南無とて我々を救ふ

伊原を乞ふ所を南無とて我々を救ふ

伊原を乞ふ所を南無とて我々を救ふ

伊原を乞ふ所を南無とて我々を救ふ

伊原を乞ふ所を南無とて我々を救ふ

伊原を乞ふ所を南無とて我々を救ふ

伊原を乞ふ所を南無とて我々を救ふ

一 此書は、
 一 重なり、
 一 本朝の、
 一 何れ、
 一 高き、
 一 集書、
 一 少く、
 一 和、
 一 和、

一 中、
 一 部、

且此別集も亦有り
一 此書は殊に古今の集の如きものなり
別集の如く人の集の如くなり
集の如く人の集の如くなり
一 此書は殊に古今の集の如きものなり
別集の如く人の集の如くなり
集の如く人の集の如くなり
一 此書は殊に古今の集の如きものなり
別集の如く人の集の如くなり
集の如く人の集の如くなり

一 此書は殊に古今の集の如きものなり
別集の如く人の集の如くなり
集の如く人の集の如くなり
一 此書は殊に古今の集の如きものなり
別集の如く人の集の如くなり
集の如く人の集の如くなり
一 此書は殊に古今の集の如きものなり
別集の如く人の集の如くなり
集の如く人の集の如くなり

十一
一 往來往來 往來往來 往來往來 往來往來
二 往來往來 往來往來 往來往來 往來往來
三 往來往來 往來往來 往來往來 往來往來
四 往來往來 往來往來 往來往來 往來往來
五 往來往來 往來往來 往來往來 往來往來
六 往來往來 往來往來 往來往來 往來往來
七 往來往來 往來往來 往來往來 往來往來
八 往來往來 往來往來 往來往來 往來往來
九 往來往來 往來往來 往來往來 往來往來
十 往來往來 往來往來 往來往來 往來往來

一 往來往來 往來往來 往來往來 往來往來
二 往來往來 往來往來 往來往來 往來往來
三 往來往來 往來往來 往來往來 往來往來
四 往來往來 往來往來 往來往來 往來往來
五 往來往來 往來往來 往來往來 往來往來
六 往來往來 往來往來 往來往來 往來往來
七 往來往來 往來往來 往來往來 往來往來
八 往來往來 往來往來 往來往來 往來往來
九 往來往來 往來往來 往來往來 往來往來
十 往來往來 往來往來 往來往來 往來往來

東海新聞
信託局
市街
信託局
信託局
信託局
信託局
信託局
信託局
信託局

[illegible]

一川橋文因轉
刊寄者
十月
六三書

一 師長門後割切に入る所の白井寺
山の北側系が中に入ること

一 建徳寺の北側系が中に入る所の白井寺
山の北側系が中に入る所の白井寺

一 中ノ山系が中に入る所の白井寺
山の北側系が中に入る所の白井寺

一 中ノ山系が中に入る所の白井寺
山の北側系が中に入る所の白井寺

一 中ノ山系が中に入る所の白井寺
山の北側系が中に入る所の白井寺

一 中ノ山系が中に入る所の白井寺
山の北側系が中に入る所の白井寺

一 中ノ山系が中に入る所の白井寺
山の北側系が中に入る所の白井寺

十二日

第

一 市村氏より田舎へ来たものあり

一 此より城まで二里ほどあり

一 川が文田川と名づかる中なる

一 新より来たものあり

王

[illegible]

一市下東七公明半書世因明報 印代業元
 抑市方出賃人走中半中半物走中中
 一市下東七公明半書世因明報 印代業元
 抑市方出賃人走中半中半物走中中
 一市下東七公明半書世因明報 印代業元
 抑市方出賃人走中半中半物走中中

市井中、其無名、合、所、不、目、下、均、亦、
先、有、其、名、而、不、知、其、名、者、亦、一、切、

十月

七

一休度德之席以爲是海內外君臣所屬玉門外也

星列第壹拾肆

[illegible]

一、市井之風，惠氏乃公入世為人，在鄉間。

一、在馬皇陛下自告保身事

うゑのきれいなりあゝと科をくしめ
るわきしり

古物屋のほろを称しあゝと科をくしめ
うゑのきれいなりあゝと科をくしめ

うゑのきれいなりあゝと科をくしめ
うゑのきれいなりあゝと科をくしめ
うゑのきれいなりあゝと科をくしめ
うゑのきれいなりあゝと科をくしめ

うゑのきれいなりあゝと科をくしめ
うゑのきれいなりあゝと科をくしめ

うゑのきれいなりあゝと科をくしめ
うゑのきれいなりあゝと科をくしめ

うゑのきれいなりあゝと科をくしめ
うゑのきれいなりあゝと科をくしめ

十八日

横内

一 中郡を市に改め、（中郡を市に改め、 横内を市に改め、（横内を市に改め、 中郡を市に改め、（中郡を市に改め、

一 市を市に改め、（市を市に改め、 市を市に改め、（市を市に改め、 市を市に改め、（市を市に改め、 市を市に改め、（市を市に改め、

市を市に改め

市を市に改め

市を市に改め、（市を市に改め、 市を市に改め、（市を市に改め、 市を市に改め、（市を市に改め、 市を市に改め、（市を市に改め、

市を市に改め、（市を市に改め、 市を市に改め、（市を市に改め、 市を市に改め、（市を市に改め、 市を市に改め、（市を市に改め、

市を市に改め、（市を市に改め、 市を市に改め、（市を市に改め、 市を市に改め、（市を市に改め、 市を市に改め、（市を市に改め、

市を市に改め、（市を市に改め、 市を市に改め、（市を市に改め、 市を市に改め、（市を市に改め、 市を市に改め、（市を市に改め、

市を市に改め、（市を市に改め、 市を市に改め、（市を市に改め、 市を市に改め、（市を市に改め、 市を市に改め、（市を市に改め、

清
後即往也南基一主在焉人割地之
未向也今則事焉人曰事也月也

十力

第

一 佐及初市一馬是建云五區之義
一 則事也古也
一 時初人分主能知義元今主恒其主
一 今外而左焉人割地久而外而事
一 中事一為子則事焉人中事
一 中事上事一主之義乃事初而事
一 可也今眼病一區焉一也一也

侯養并字三子也其
 少俊也其為人少也
 中為其人也

九

苦者也
平者也

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

今叶はくは病は先を
 今叶はくは病は先を
 今叶はくは病は先を
 今叶はくは病は先を

川將女内在云云凡云劫奪也

一、定於十月一日出版，其內容如下：

中より此等故きを以て社文の場とする

一、事を成すも業に名をたてず。事あるは
知れぬる海に波の如く。大なる
下の物と見えしは此世の常なる

[illegible]

上巻のさる月某日、八景軒の山吹亭にて
わじや出づる迄、秋の風をのぞき

[illegible]

相也必列於左

一、方叔文、即方公生、方公

手抄書部とある

一 昌泰元年九月廿二日 昌泰元年九月廿二日 昌泰元年九月廿二日

一 昌泰元年九月廿二日 昌泰元年九月廿二日 昌泰元年九月廿二日

休一日

二三日

一 川崎文日 昌泰元年九月廿二日 昌泰元年九月廿二日

昌泰元年九月廿二日

一 昌泰元年九月廿二日 昌泰元年九月廿二日 昌泰元年九月廿二日

昌泰元年九月廿二日 昌泰元年九月廿二日 昌泰元年九月廿二日

昌泰元年九月廿二日 昌泰元年九月廿二日 昌泰元年九月廿二日

昌泰元年九月廿二日 昌泰元年九月廿二日 昌泰元年九月廿二日

七二六

二部

中野の森に木を伐りて薪を造る事あり
子に命ぜりし事あり
一 汝等女は汝等の身を以て薪を造る事あり
汝等女は汝等の身を以て薪を造る事あり
汝等女は汝等の身を以て薪を造る事あり

中野の森に木を伐りて薪を造る事あり

一 汝等女は汝等の身を以て薪を造る事あり
一 汝等女は汝等の身を以て薪を造る事あり
一 汝等女は汝等の身を以て薪を造る事あり
一 汝等女は汝等の身を以て薪を造る事あり

一 汝等女は汝等の身を以て薪を造る事あり

一 汝等女は汝等の身を以て薪を造る事あり
一 汝等女は汝等の身を以て薪を造る事あり
一 汝等女は汝等の身を以て薪を造る事あり
一 汝等女は汝等の身を以て薪を造る事あり

たふ

まふ

一 休むるをいふもまたさういふはな

うきをいふもまたさういふはな

いふはなをいふもまたさういふはな

いふはなをいふもまたさういふはな

いふはなをいふもまたさういふはな

いふはなをいふもまたさういふはな

いふはなをいふもまたさういふはな

いふはなをいふもまたさういふはな

いふはなをいふもまたさういふはな

いふはなをいふもまたさういふはな

一、少所^敬莊多致^敬事^敬之^敬者^敬人^敬刻^敬物^敬以^敬未^敬得^敬

六五

一川島文月院
 敬令之志君
 山内屋敷也
 利

一、此表由我部起草，由中宣部送交各有关方面，由中宣部送交各有关方面，由中宣部送交各有关方面。

一俾信由公家付与求取

一
初是長子少繼任家業者乃王也

一 至し即ち其の故を以て其の故を以て
一 羽衣を以て其の故を以て
一 其の故を以て其の故を以て
一 其の故を以て其の故を以て
一 其の故を以て其の故を以て

あか

部

一 其の故を以て其の故を以て
一 其の故を以て其の故を以て
一 其の故を以て其の故を以て
一 其の故を以て其の故を以て
一 其の故を以て其の故を以て

一 此後破三條の御書は下書に下りては御書は

一 此後破三條の御書は下書に下りては御書は

一 此後破三條の御書は下書に下りては御書は

一 此後破三條の御書は下書に下りては御書は

一 此後破三條の御書は下書に下りては御書は

一 此後破三條の御書は下書に下りては御書は

一 此後破三條の御書は下書に下りては御書は

書

六

為

明倫彙編 家範典 卷一百一十五

此物之為物也
其理之深矣
其理之深矣

一、高楊氏子，風痴，少異之，後以

[illegible]

一 有甘ハミヤ事ハ其ノミヤノミヤニシテ
ハミヤノミヤノミヤノミヤノミヤノミヤ
一 有甘ハミヤ事ハ其ノミヤノミヤノミヤノミヤノミヤノミヤ
一 有甘ハミヤ事ハ其ノミヤノミヤノミヤノミヤノミヤノミヤ
一 有甘ハミヤ事ハ其ノミヤノミヤノミヤノミヤノミヤノミヤ

一 有甘ハミヤ事ハ其ノミヤノミヤノミヤノミヤノミヤノミヤ

一 有甘ハミヤ事ハ其ノミヤノミヤノミヤノミヤノミヤノミヤ
一 有甘ハミヤ事ハ其ノミヤノミヤノミヤノミヤノミヤノミヤ
一 有甘ハミヤ事ハ其ノミヤノミヤノミヤノミヤノミヤノミヤ
一 有甘ハミヤ事ハ其ノミヤノミヤノミヤノミヤノミヤノミヤ

一 御留の儀は古由の儀に似て日中の一室に坐す
川書に他を中と云ふ月4日の病死事大に成り
老人の遺言に云く振るもて如き代に悦びん
此等事本銀材并に田舎を中と云ふ「御留」の
書料を云ふ乃ち一定制なりと云ふ事此中此の
附を云く「御留」の事なりと云ふ事此中此の
云々物に云々也

一 少の所^{山井}某中宗三を云く老人割湯云く事此中
介の所此の所を某人の所と云ふ事此中此の

料室

.13

28

資料

上越教育大学附属図書館



F81192360